

キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト (Circle of Characters)

プロジェクト代表者: 大矢 繁夫 プロジェクトリーダー: 川本 雅史

Circle Of Characters キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト

プロジェクト概要

後志地域・札幌のご当地キャラを活用した2つの独自ツールにより、広域連携の仕掛け作りを行うプロジェクトです。

地元企業と開発した2つのツールを複合的に活用し、中立な立場で地域のハブとなり観光情報を幅広く提供することにより、本学COC事業のキーワードである「地域間連携」、「複数地域の訪問及び長期滞在」、「観光情報発信」、「地域ブランド化」、「商品開発」等に寄与することを目的としています。

また、採択プロジェクトの中で唯一、COC事業の全連携地域を対象としたプロジェクトです。

2つの独自ツール

ご当地キャラのオリジナルキャンディ



ご当地キャラ紹介 & 観光情報カード



【企画協力】: 小樽市、札幌市、倶知安町、ニセコ町、後志総合振興局、小樽観光協会、株式会社石井印刷、石屋製菓株式会社、歴史文化研究所、ホテルヴィブラントオタル、株式会社たるしえ、手稲区役所、小樽あなか焼そば親衛隊、おたる水族館、円山動物園 (順不同)

地域の声を聴いて

プロジェクトの構想段階では、広域アンケートの実施と、アンケートの回収率を高めるための、地元企業と協働したアンケート謝礼品 (オリジナルキャンディ) の開発が主目的でした。

プロジェクトの推進に伴い、多くの方々から意見をいただき、それらを反映する形でプロジェクトが大きく変化していきました。

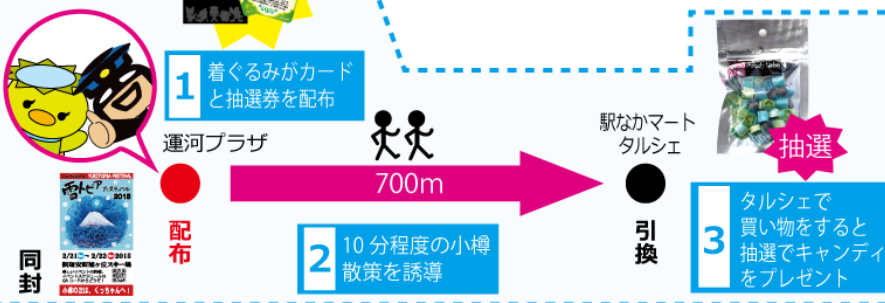
地域からの主な意見

「大人を動かすのは子供。子供に訴えかける取組を」
 「キャンディだけでなく、それを活かす更なる仕組みを」
 「実際に長期滞在につながる仕掛けを」
 「地域にお金を落とすための具体的な仕掛けを」

「小樽に来ている人には、むしろ他地域の情報提供を」
 「意義の薄いアンケートはもう不要」
 「観光客には着ぐるみの活用が有効」
 「連携自治体にとどまらないプロジェクト展開を」

イベントの実施

「行きたいと思うか」、「買いたいと思うか」といったバーチャルなアンケートを実施するのではなく、実際の取組がどのように観光客の行動に結び付くかを調査すべく、「小樽雪あかりの路」に合わせて動態調査を実施しました。また、翌週に開催される倶知安町のイベントカードを同封するなど、観光客をターゲットに、ピンポイントに地域情報を発信しました。



左記の取組においては、約1,000枚のカード配布に対し、10.9%の観光客が引換場所まで足を運び、しりべし地域の商品を購入したという結果が得られています。

※ただし、実際にカードを配布した際には、3~4割が外国人観光客であったことから、それらの対象には効果が無かったことも想定されます。

今後の展開について



平成26年度の取組においては、観光情報カードを13種類作成しましたが、未作成地域のカード作成にかかる要望、札幌市の「ゆるキャラでつなぐ北海道179市町村道内プロジェクト」との連携など、地域との対話の中で、プロジェクトはさらに広がる可能性を秘めています。また、平成27年度に開業予定の北海道新幹線との連携も進行中です。補助金により生まれたプロジェクトの果実を有効に活用するため、引き続き地域の要望に基づきながら、取組を継続したいと考えています。

